



米国株 MARKET PICK UP



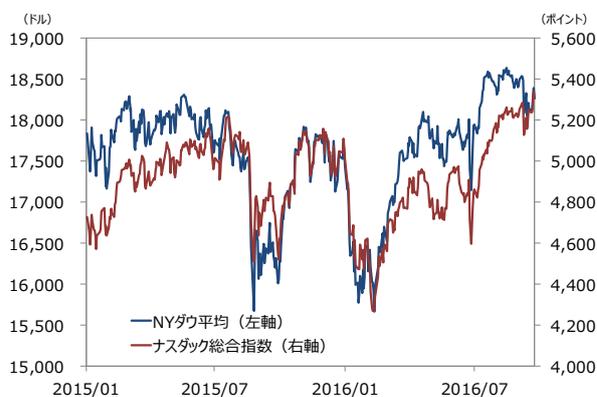
先週の米国株式市場—利上げ見送りを好感し上昇—

	前週終値	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	9月23日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,123.80	18,120.17	18,129.96	18,293.70	18,392.46	18,261.45	+137.65	+0.76%
騰落幅		-3.63	+9.79	+163.74	+98.76	-131.01		
S&P500	2,139.16	2,139.12	2,139.76	2,163.12	2,177.18	2,164.69	+25.53	+1.19%
騰落幅		-0.04	+0.64	+23.36	+14.06	-12.49		
ナスダック総合指数	5,244.57	5,235.03	5,241.35	5,295.18	5,339.52	5,305.75	+61.18	+1.17%
騰落幅		-9.54	+6.32	+53.83	+44.34	-33.78		

＜先週の概況＞

先週の米国市場でダウ平均は週間で137ドル高と上昇しました。また、ハイテク株比率の高いナスダック総合指数も週間で61ポイント高と上昇し、史上最高値を更新しました。20日から21日にかけて行われた連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げが見送られたことが好感されました。FOMC後に発表された経済予測（プロジェクション）で年内に利上げが行われないと予想するメンバーが3人いたことなども好感されたとみられます。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



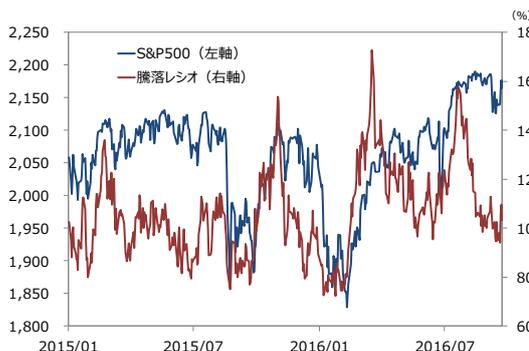
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	17.2	3.1	2.6%
S&P500	18.5	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.7	3.6	1.2%

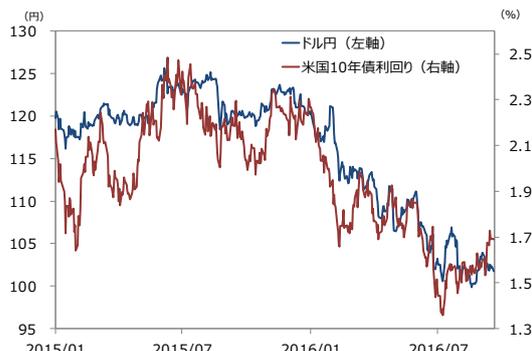
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年9月23日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

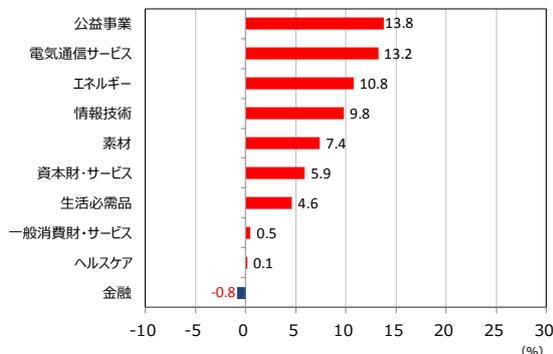
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

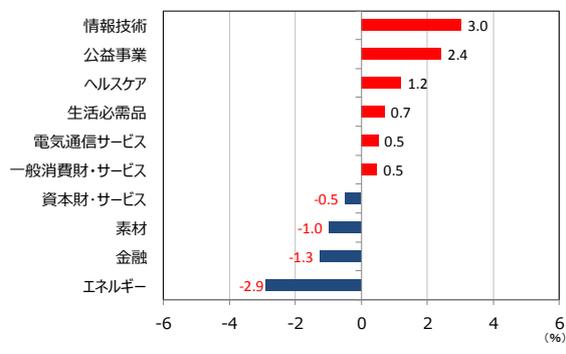
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (9/19-9/23)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
BA	ボーイング	4.0
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	2.5
JPM	JPMorgan Chase & Co.	2.2
MCD	マクドナルド	1.6
CSCO	シスコシステムズ	1.6
UNH	ユナイテッドヘルスグループ	1.5
KO	コカ・コーラ	1.4
CVX	シエラ	1.4
HD	ホーム・デポ	1.3
MMM	3M	1.3

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (9/19-9/23)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
AAPL	アップル	-1.9
INTC	インテル	-1.3
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	-0.7
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-0.7
XOM	エクソンモービル	-0.7
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-0.5
PG	プロクター・アンド・ギャンブル	-0.3
NKE	ナイキ	-0.1

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ボーイング (BA) が4%の上昇で上昇率トップとなったほか、ユナイテッド・テクノロジーズ (UTX) や JP モルガン (JPM) などが買われました。

<下落>

前週に週間で10%以上上昇したアップル (AAPL) に利益確定売りが出て1.9%安と下落率トップとなりました。その他にもインテル (INTC) やウォルマート (WMT) など前週に大きく買われていた銘柄の下落が目立ちました。

先週発表された主な経済指標

連邦公開市場委員会 (FOMC)

20日から21日にかけて行われた連邦公開市場委員会 (FOMC) で、大方の予想通り利上げは見送られました。ただし、声明文に「利上げの論拠は強まったと判断するがさらなる証拠を待つことに決めた」との文言が追加されるなど、利上げの時期が近づいていることをはっきりと示唆し、近い会合での利上げ実施が有力であることが表明されました。

ただし、追加利上げの時期が近いと示された一方でメンバーたちの経済予測 (プロジェクション) において年内の利上げが1度もないと予想するメンバーが3人おり、メンバー全員の来年以降のFF金利予想が6月の発表値から大きく下方修正されるなど、今後の利上げペースが緩やかになることが示唆されました。

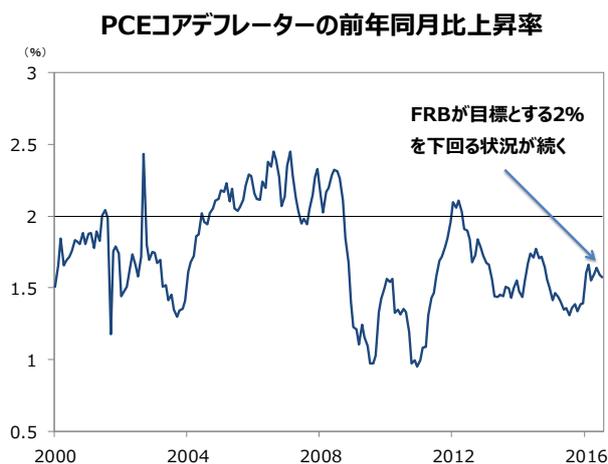
利上げ見送りや今後の利上げペースの示唆を好感し、米国株式市場は大きく上昇しました。

今後発表される主な経済指標

8月 個人消費支出 (PCE コアデフレーター・前年比) 市場予想 +1.7% 前月 +1.6%

30日に8月の個人消費支出 (PCE コアデフレーター) が発表されます。同指標はFRBが物価上昇率を計る際に重視しており、その動向が注目されます。

市場予想では前年比1.7%の上昇と7月から上昇率が伸びるとみられています。同指標がFRBの目標とする2%に近づけばより利上げの可能性が高まるとみられます。



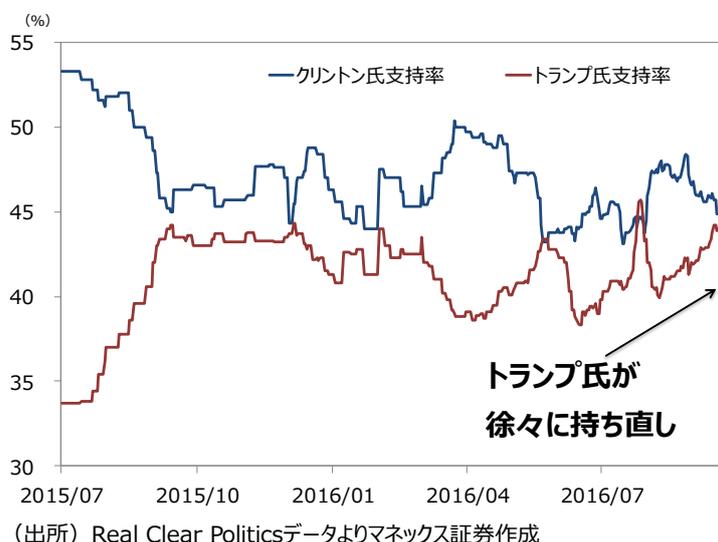
(出所) トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

マーケットビュー—トランプ氏とクリントン氏のテレビ討論に注目—

先週のマーケットビューではFOMCの結果に注意と記しました。結果的には市場の予想通り利上げは見送られ、さらに今後の利上げペースが緩やかになると示唆されたことを好感して米国株は上昇しました。

今週は日本時間27日にトランプ氏とクリントン氏のテレビ討論が行われ、「米国の進路」「繁栄」「安全保障」という3つのテーマについて討論が行われる予定となっています。現在はクリントン氏が選挙戦をリードしているとみられますが、過去にも同討論会をきっかけに大統領選の戦況が大きく変わったことがあることから注目されます。

クリントン氏 VS トランプ氏 支持率の推移



フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会